Rotary Club of Hiroshima New Generation

広島新世代ロータリークラブ会報
国際ロータリー第 2710 地区

Vol. 23

2026 年　9 月　3 日（木）第 23 回例会　【対面式 ZOOM ハイブリッド例会】

会長　諏訪 昭浩　／　幹事　伊藤 弘幸　／　広報委員長（会報担当）　谷口 公啓
例会場　おりづるタワー5F「凛」（広島市中区大手町 1-2-1）

会　長　時　間　　諏訪昭浩　会長



まず、本日のお客さまをご紹介いたします。 国際ロータリー第 2710 地区グループ 8 ガバナー補佐、東広島 21RC 所属、原直樹さん。ガバナー補佐幹事、東広島 21RC 所属、石竹 一哉さんです。ようこそいらっしゃいました。本日は例会後のクラブ協議会へのご参加よろしくお願いいたします。

さて、9 月は国際ロータリーが定める「基本的教育と識字率向上月間」です。また、日本独自に「ロータリーの友月間」と定めています。

基本的教育と識字率向上というテーマは日本にいると実感がわきません。しかし、世界には、十分な教育を受けられず読み書きできない大人になる子どもたちがいる国があります。こういう地域で基本的教育を提供し、識字率が向上することは、貧困や健康状態の改善や、平和構築など、それ以外の問題の解決にも繋がります。

世界には 5800 万人の学校に通っていない子どもがいます。日本の小学生は約 600 万人ですから、その 10 倍近い数です。読み書きできない大人は世界に 8 億人弱。世界人口が 80 億人ですから、10 人に 1 人、成人人口ではもっと多くなります。

ロータリーの国際奉仕はそのような他国の問題に目を向けるものです。当クラブはまだロータリー財団の補助金を利用したことがまだありませんが、一番良い方法は、利用された方々の経験から学ぶことです。この地区にも、また先日東京からお見えになった方々の中にもかなり経験豊富な方々がいます。まずはそういう方々と個人的に仲間となってお話を聞く。これが対外的奉仕の第一歩となる重要なステップだと思います。また、Facebook などの SNS は、国際ロータリーも積極的に情報発信のために使っていますので、そこからも情報を仕入れることができます。当クラブの Facebook ページにはそのような情報へのリンクを掲載していますので、これも良い情報源です。クラブの団体的奉仕の活性化は、まずは皆さん個人個人が「知り合いを増やす」こと、積極的に情報を取りにいくこと、そしてそこから学ぶことから始まります。

さて、今月は日本独自に定めた「ロータリーの友月間」でもあります。 ロータリアンはロータリーの「機関雑誌」を購読する義務があります。「機関雑誌」の中で、「機関誌」と呼ばれるのが国際ロータリーが発行している The Rotarian 誌です。名前は変わりましたが、その創刊号ではロータリーの創設者ポール･ハリスのエッセイが紹介されました。ただ、これは英語で書かれていますから、この機関誌以外に、26 カ国語で書かれた「地域雑誌」というものが存在し、これを講読しても良いことになっています。ロータリーの友はそのひとつで、今では電子版も作られています。

ロータリーの友を毎月読むことによって、今ロータリー世界で何が起こっているのか、また、他のロータリアンが何をどのように考えているのか、そういうことがわかってきますので、是非、これを読む習慣を身につけていただければと思います。

話は変わりますが、先週お話ししたように、福本幹事代行が、諏訪を世に放ちたいとおっしゃっています。これは、クラブの外に行って、どんどんロータリーの話をしてこいということです。幸か不幸か、僕はよく他クラブの卓話に呼ばれます。何を話しましょうかと尋ねると、大抵は、ロータリーの話をしてほしい、と返ってきます。理由を尋ねると、ロータリーの話ができる人がいない、ということです。それはとても悲しいことですが、そのような方々が育つまでの間、僕が時間かせぎをする役目なのかなと思い、できるだけ簡単に、面白く、ロータリーの話をするよう努めています。

一昨日は、尾道東ロータリークラブさんで、「ロータリーの隠れた正体をお話しします」という大それたテーマでお話をしてきました。奉仕団体という誰もが知るロータリーの一面がある、その裏で、実は、自己教育によって自分の成長を図る、そして、そこから生まれる「人にやさしくする心」を、様々な奉仕の形で世の中に放流していくという、ロータリー運動の隠れた正体、ロータリーの本質があるのだという話です。これは当クラブを設立して、人を育てるネストにしようという僕の目論見であり、また、僕がロータリーを続けている理由、僕が感じているロータリーの最大の魅力であります。今月は、小根森ガバナーエレクトのクラブにも卓話に伺う予定ですが、やはり、この話をしてこようと思っています。

以上で会長時間を終わります。

ご　挨　拶　　原直樹　RI2710 地区 2026-2027 年度グループ 8 ガバナー補佐

皆様、こんばんは。ただいまご紹介にあずかりました、本年度国際ロータリー第 2710 地区グループ 8 ガバナー補佐を務めさせていただいております、東広島 21 ロータリークラブの原直樹でございます。

広島新世代ロータリークラブ様にお邪魔するのは、今回で実は 2 回目となります。昨年のチャーターナイトの際、井内直前ガバナーを輩出したクラブの幹事として、本日ご一緒しております石竹補佐幹事と共に伺ったのが最初でございます。

私は、クラブを発足された諏訪会長とお会いすること、そして他クラブのチャーターナイトに立ち会うという貴重な機会を経験したいという好奇心から、そのチャーターナイトに参加させていただきました。

私事で大変恐縮ですが、現在入会 6 年目になります。5 年前に RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）にて、当時ファシリテーター（現在はディスカッション・リーダーと呼びますが）を務められていた諏訪会長とお会いして以来、密かにファンを続けております。諏訪会長が以前のクラブで会長を務められていた際の「会長時間」は、その部分だけをすべて印刷してファイルに綴じ、今でも時折読み返しております。ぜひ皆様もお読みになってはいかがでしょうか。

本日も諏訪会長の会長時間を拝聴することができ、大変有益な時間をありがとうございました。本日はこの例会、並びにクラブ協議会という重要な機会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

限られた時間ではございますが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

幹　事　報　告　　福本博之　幹事代行

・ロータリーの友誌 9 月号が受付カウンターの所に置いてありますので、お持ち帰りください。

・令和 8 年熊本地震災害に対する支援金について、第 2710 地区より協力の御礼と送金の連絡がありました。当地区からの支援金の総額は 352 万 7,080 円。被災地区である第 2720 地区（熊本・大分）の受付窓口に対して送金されたとの事でした。

・各委員会報告、その他、例会での発言が予定されている場合は、例会開催時までに広報委員会まで原稿のご提出をお願い致します。

委　員　会　報　告　管理運営委員会　川口茂博　委員

・管理運営委員会からお願いを申し上げます。例会中の私語は慎んでいただくようお願いいたします。会員同士の交流はとても大事ですが、例会中にお隣の方とお話しされるのは、プログラム等で発言されている方に大変失礼にあたります。会員同士の交流は例会前に少し早めに来ていただき、ドリンクを飲みながらゆっくりとしていただき、例会中はプログラムに集中していただきますようお願いを申し上げます。以上です。

出　席　報　告　　管理運営委員会　竹本竜平　委員

区　分	内　容
会員総数	18 名
本日の出席（リアル／オンライン）	11 名／3 名
出席率（8 月第 1 週）	90.0%
出席率（8 月第 3 週）	95.0%

ス　マ　イ　ル　BOX　管理運営委員会　竹本竜平　委員

本日は 0 件でした。

会長エレクト変更、理事追加について　福本博之　幹事代行・諏訪昭浩　会長

ただいまより、事前に皆様へメールを差し上げました通り、「会長エレクトの変更」および「理事の追加」について皆様のご賛同をいただきたく存じます。

本日の例会は会員数 18 名、オンライン参加を含む出席者数が 14 名です。定足数は本クラブ会員総数の 3 分の 1 である 6 名ですので、本日の出席者数は定足数を満たしております。

まず、会長エレクトの変更についてお諮りいたします。会長エレクトとは、来年 7 月以降の次年度会長のことです。会長エレクトを含む次年度理事役員は、2025 年 12 月の年次総会にて皆様のご賛同を得て決定しておりましたが、会長エレクトに選出されていた諏訪さんより、「他の理事が会長就任を固辞された

ためやむを得ずお引き受けしたものの、再考した結果、3 期連続で会長を務めることは本意ではなく、やはり他の方にお任せしたい」との意思表示がございました。

これを受け、去る 8 月 7 日の理事会にて諏訪さんのお申し出を受理し、これから申し上げる会長エレクトへと変更することを決議いたしました。本日はその決議に対して皆様のご賛同をお願い申し上げます。

変更内容は以下の通りです。「会長エレクトを諏訪さんから福本博之さんに変更する」以上です。それでは、議長である諏訪会長、よろしくお願いいたします。

ただいま進行（幹事代行）の福本さんからご紹介があった通りです。発表されました会長エレクトの変更にご賛同いただける方の挙手を求めます。

――ありがとうございます。賛成多数により、発表の通り決定といたします。ご賛同ありがとうございました。

続きまして、理事の追加についてお諮りいたします。本年度理事につきましても、先ほどと同様に 2025 年 12 月の年次総会にて決定しておりましたが、理事会メンバーより「理事の増員が必要である」との提案がございました。去る 8 月 19 日の臨時理事会にて、これから申し上げる理事を追加することを決議いたしましたので、本日はその決議に対して皆様のご賛同をお願い申し上げます。

内容は以下の通りです。「槇下賢さんと渡辺郁さんを本年度理事に追加する」

以上です。それでは、議長である諏訪会長、よろしくお願いいたします。

ただいま説明があった通りです。発表されました本年度理事の追加にご賛同いただける方の挙手を求めます。

――はい、ありがとうございます。賛成多数により、発表の通り決定といたします。ご賛同ありがとうございました。

委　員　会　報　告　槇下賢　成長支援委員会　副委員長

ロータリー情報ということで、本日は「例会出席の重要性」についてお話しさせていただきます。

「ロータリアン」と「ロータリークラブの会員」とは別物である、という言葉があります。両者の違いは、ロータリー哲学を自覚してしっかり自己教育に励もうとするか、そうでないかの違いです。この立場に立つと、ロータリアンになるためには常に学ぼうとする姿勢が大切ですが、その主たる場はロータリークラブの例会です。例会という学びの絶好の機会に、毎回何かを学んで帰ろうとする姿勢が非常に重要です。

では、例会が学びの場になるために何が必要でしょうか。 まず、クラブが学びのチャンスを会員に提供しなければなりません。よく言われるように、例会プログラムは娯楽に終始するのではなく、自己教育に役立つロータリー情報や、ロータリー精神に基づいて正しく職業を実践することに役立つ情報を提供しなければなりません。こうした教育的要素こそが、ロータリークラブが他の社交クラブや奉仕団体と一線を画すところであり、逆に言えば、ただ楽しく過ごして既存の人間関係をなぞるだけのクラブであれば「ロータリーでなくてもよい」わけであって、他の社交クラブや奉仕団体と何も変わりません。

しかし近年は、クラブによるロータリー情報の提供が十分ではない傾向があるようです。クラブは「会員の成長を支援する」という目的を掲げて創立されました。正しい情報がなければ自己教育も、クラブの発展に資する正しい判断もできません。これからのクラブリーダーの皆様と、関係委員会の皆様の意識改革と取り組みを期待いたします。

次に、例会では先輩・後輩など世間の身分関係や、「大が小に勝る」という価値観を捨て、仲間同士対等・平等であることが要求されます。これがあるからこそ、例会での自己教育が可能になります。

最後に、例会では茶道でいう「一期一会」の精神が必要です。これは「出会いは一度限りのものであると考え、心を込めておもてなしをしなければならない」という教えですが、ロータリークラブの例会におけるお付き合いにも同じことが言えます。当クラブの会員は隔週例会で顔を合わせますが、その毎回毎回の出会いを一度限りのものと考えて心からのお付き合いをすることが、自己教育にもなるのです。

このように、例会は活動の基本であり非常に重要です。会員の自己教育を促す例会運営は、五大奉仕の中の「クラブ奉仕」に属します。昨今の奉仕の実践（外向けの活動）を重視する風潮の中ではマイナーな印象を受けがちですが、実はクラブ奉仕こそが自己教育を基本とするロータリーの本質を支えるものです。ぜひクラブ奉仕に対する認識を改めていただき、素晴らしいクラブ奉仕を実践していただくよう期待いたします。

それでは次に、「年次総会」について少しお話しします。

毎年 12 月にロータリークラブは年次総会を開催しますが、総会については非常に誤解が多いので、本日はロータリーの意思決定についてお話しいたします。

ロータリークラブの唯一の意思決定機関は「理事会」です。例会など理事会以外の場で審議することは細則で禁じられており、すべての決定は、例会などで会員の意思を尋ねて行うのではなく、理事会において理事の多数決で行われます。

しかし、これには例外が 2 つあります。

1 つ目が、年末の年次総会で行われる「次年度理事役員の選挙」です。次年度理事役員の選挙は、理事会が理事役員候補を承認したのちに、毎年 12 月に定足数（会員総数の 3 分の 1）を満たす年次総会で会員の賛同を得て可決されます。年次総会は、次年度理事役員の選挙のためだけに開催されると考えてください。

もう 1 つの例外は「細則改正」です。これは理事会が改正案を承認した後、定足数（会員総数の 3 分の 1）を満たすいずれかの例会において、出席会員の 3 分の 2 の賛同で決定されます。これを「総会」と呼ぶのは間違いですのでご注意ください。ロータリークラブの総会は、年に一度の「年次総会」のみです。

さて、このような 2 つの例外があっても、原則としてロータリークラブでは理事会だけが意思決定を行うことができます。理事会の決定は最終決定であり、総会（選挙）等を除いて覆すことはできません。したがって理事の責任は非常に重く、一般常識にとどまらず、しっかりとしたロータリーの見識を持ち、分

からないことがあれば自ら調べて対応する必要があります。また、円滑な管理運営のため、それが不正や不透明なものでない限り、理事は全面的に会長・幹事の方針に賛同する姿勢が求められます。

このような重い責任のもとになされた最終決定に対し、クラブのすべての会員はこれをリスペクトし、私情や異論は横に置いて理解する態度が要求されます。

先日、別のクラブのロータリー歴の長い方が「理事会の決定に対して陰で文句を言うのは言語道断（けしからん）」とおっしゃっていました。大いに賛成です。理事会が責任を持って決定した事項に対しては、たとえ個人の考えと異なる部分があっても、それを正しく理解して協力することがロータリーの仲間としての態度です。理解を深めるための議論は結構ですが、単なる批判のための議論には全く意味がありません。

決定権を持つのは理事会だけであるにもかかわらず、意思決定の権限がない一部の会員が水面下で決めたことを理事会が後付けで承認したり、あるいは理事会の決定事項に対して一部のベテラン会員が異論を唱え、そこに理事会が忖度して揺らいでしまったりする――そのような、ロータリークラブとしては本来あり得ない事態が、残念ながら多くのクラブに存在し、そのために非常に不愉快な思いをしたり退会してしまう会員が出ることがあると耳にします。

このようなことが起こらないよう、意思決定に関する正しい理解と規定の整備、そしてそれに基づく厳正な運営が必要です。ひいてはそれが「皆が真の仲間である」という楽しさを生み出すと信じています。

以上で、本日のロータリー情報の発表を終わります。

＜決算・予算報告＞

Rotary
広島新世代ロータリークラブ

2025－2026 年度
決算報告

2026 年 8 月 7 日（金）

収支計算書

収　入　の　部

科　　目	予　　算	実績	備　　考
会費	3,870,000	3,840,000	
寄付金		97,002	
C ナイトご祝儀	200,000		
C ナイト登録料	1,500,000	954,000	
受取利息		745	
収入合計	**5,570,000**	**4,891,747**	

支　出　の　部　(1)

科　　目	予　　算	実績	備　　考
RI 加盟料	35,760	50,760	「その他負担金」に計上
人頭分担金	231,434	158,882	
規定審議会分担金	3,427		
ﾛｰﾀﾘｰ財団寄付金	160,175		
P PLUS 分担金	96,105		
米山記念奨学会普通寄付	86,000	44,000	
ﾛｰﾀﾘｰ友誌代	70,950	49,500	
地区運営関係費	215,000	160,400	
地区研修関係費	94,600	130,600	
地区活動費	107,500	80,200	
地区大会分担金	135,450	0	初年度に付き免除
ｶﾞﾊﾞﾅｰ会運営協力金	4,300	2,200	
ﾛｰﾀﾘｰ文庫運営協力金	4,300	2,200	
RIJYEM 維持協力金	4,300	2,200	
その他負担金		19,000	会長幹事懇親会
支出(1)小計	**1,249,301**	**699,942**	

支　出　の　部　(2)

科　　目	予　　算	実績	備　　考
インターシティ・ミーティング		210,000	
RLI		27,000	
会長幹事懇親会		19,000	「その他負担金」に計上
会合費小計	**0**	**237,000**	

会場費	1,260,000	1,512,000	
通信費	22,000	29,794	
事務用品費	11,000	134,009	
支払手数料	135,450	34,741	
会費ペイ手数料		170,421	
備品費	462,840	877,960	動画作成費 550,000 円を含む
雑費	1,894,851	413,161	
オープニング動画作成費			
追加バナー購入			2299 円
事務関係費合計	3,786,141	3,172,086	
地区依頼支援		21,000	
奉仕関係費合計	0	21,000	
支出合計	**5,035,442**	**4,130,028**	
収　　支	**534,558**	**761,719**	

貸借対照表

資産の部		負債および資本の部	
科　　目	金額	科目	金額
現金	0	次期繰越収支差額	761,719
普通預金			
広銀メイン口座	687,711		
広銀奉仕活動資金口座	74,008		
合計	761,719	合計	761,719

特記事項

1. 創立年度は 10 ヶ月であったため予算の精度が悪く実績との乖離が生じたが、2 年目からは予算の精度は向上する見込。
2. 初年度であったため、予算組みしていた支払い項目の実際の支払いが次年度となったものがあるため予算と実績の乖離が生じたが、2 年目からは予算の精度は向上する見込。

検査について

私は、広島新世代ロータリークラブの 2025 年 7 月 1 日から 2026 年 6 月 30 日までの会計年度の収支計算書および貸借対照表について、請求書及び領収書、銀行口座通帳を確認して検査した。

検査の結果、上記各計算書は、当クラブの収支および財産の状況を正しく示していると認める。

2026 年 8 月 7 日

理事　　福本　博之

Rotary
広島新世代ロータリークラブ

2026－2027 年度
予算報告

2026 年　8 月　7 日（金）
会計理事　福本　博之

前提条件

期初会員数　　21　期中入会者数　　5　Ｒレート　　160

収支計算書

収　入　の　部		
科　　目	予　　算	備　　考
会費	4,230,000	
前年度繰越	761,719	奉仕プロジェクト資金を含む
スマイル	70,000	
収入合計	**5,061,719**	

支　出　の　部　(1)		
科　　目	予　　算	備　　考
人頭分担金	321,480	$42.75/半期
規定審議会分担金	3,360	$1/年
ﾛｰﾀﾘｰ財団寄付金	376,000	$50/半期
P PLUS 分担金	112,800	$15/半期
米山記念奨学会普通寄付	141,000	3,000 円/半期
ﾛｰﾀﾘｰ友誌代	77,550	275 円/月（半期支払）
地区運営関係費	235,000	5,000 円/半期
地区研修関係費	103,400	2,200 円/半期
地区活動費	117,500	2,500 円/半期
地区大会分担金	132,300	6,300 円/年
ｶﾞﾊﾞﾅｰ会運営協力金	4,700	100 円/半期
ﾛｰﾀﾘｰ文庫運営協力金	4,700	100 円/半期
RIJYEM 維持協力金	4,700	100 円/半期
支出(1)小計	**1,634,490**	

支　出　の　部　(2)		
科　　目	予　　算	備　　考
地区研修協議会	40,000	
地区大会	250,000	全員登録
インターシティ・ミーティング	260,000	全員登録
RLI	108,000	福本 PART1 新規 1 名
会合費小計	**658,000**	

会場費	1,680,000	120,000*8 月 180,000 円*4 月
備品費	300,000	バナー他
事務関係費合計	1,980,000	
奉仕プロジェクト費	500,000	
奉仕関係費合計	500,000	
支出合計	**4,772,490**	
収　　支	**289,229**	

＜ガバナー補佐参加クラブ協議会＞

◆管理運営委員会　管理運営委員会の状況報告（諏訪昭浩　委員長代行）

管理運営委員会委員長を代行しております諏訪です。委員長は諸事情によって職務遂行が難しくなりましたので、致し方なく私が代行しております。

管理運営委員会は、細則及び会長からの依頼事項によって、クラブの管理運営全般に関する責務を遂行することになっています。例会プログラムの企画、SAA を中心とした、楽しく参加したくなる例会運営、スマイルボックス寄付の促進、さらに、懇親会などの行事の企画運営といった会員間の親睦促進が含まれます。

このような役割は、幹事と密に連携しなければ遂行することができませんので、独断ではなく、幹事に相談しながら、クラブ全体の都合や予定に反することがないよう、慎重に進める必要があると認識しております。

ロータリークラブの運営は委員会活動が基本だと認識しており、当クラブの運営内規にも明記してあるように、委員長が単独で事を進めることは絶対にせず、頻繁に委員会を開催して、全員総意のもとで、委員会活動を進めていきます。

しかし、クラブ立ち上げ間がないこともあって、必ずしもそのようにできていない部分がありました。今年度は、気持ちを改めて、確実にそのような委員会運営を行い、責務を全うしたいと思っています。

最近の委員会活動をご紹介します。まず、今年度に入り、全員で話し合い、例会運営に必要な、受付、SAA などの担当者を上半期分決定しました。急遽欠席の場合はその本人が代役を依頼することにしています。そして、そのようなやりとりをする場として、あるは、必要な情報提供の場として、全メンバーが参加した LINE グループを立ち上げました。8 月 20 日は今年度第 2 回目の委員会を開催。担当者の確認、当クラブの理念の確認、クラブ全体の委員会構成の確認、委員会の責務の確認を行いました。

今後は、時に飲食を伴う委員会もできるだけ頻繁に開催し、確実に職務を全うするだけでなく、委員が管理運営について知識を広げることができるような情報提供、委員間の親睦促進を行っていきたいと思っています。

◆成長支援委員会　成長支援委員会の状況報告（諏訪昭浩　委員長）

成長支援委員会委員長の諏訪です。本来は会長が委員長を務めるのは異例なのですが、会員数が少ないクラブであるということもあり、また、当委員会はクラブを特徴づける非常に重要な委員会なので、自ら責任を持って運営したいとの思いがあり、委員長を兼務させていただいております。

成長支援委員会という委員会を持つクラブは日本で当クラブだけだと思います。成長支援委員会は、「人を育てる」というロータリークラブが会員に負う責務を重視する当クラブが、その責務を果たすために、会員の自己教育運動に必要な情報や支援を提供するために設けた委員会です。毎月第 1 例会で「四つ

のテスト」の唱和、第3例会で、できるだけタイムリーなロータリー情報の提供を行っています。また、定期的なラーニングの機会を会員に提供する役割があり、当委員会の委員長をクラブラーニングファシリテーターに任命し、現在、例会時間を利用した定期的なラーニングセミナーを企画しています。また、新会員に対するオリエンテーションも当委員会の役割です。

これまでの活動を紹介します。当委員会はこのクラブ独特であり、特色のあるクラブであり続けるために役割が重大であるとの認識の元、まず、前年度6月8日に、委員が全員参加して委員会を開催しました。会員が経営する中華料理店「敦煌」にて、飲食をしながらの委員会でしたので、委員同士の親睦を図ることもできました。この委員会では、次の年度の活動に向けて、まずは等クラブの理念を再確認し、四つのテストの唱和とロータリー情報の提供の担当者を決めました。担当者を決めることが、委員の意識向上や出席への積極性を向上させたのではないかと思います。

今後は、9月16日に2回目の委員会を開催する予定です。この委員会では、懸案になっているラーニングセミナーと、新会員に対するオリエンテーションの方法について、具体的な協議を行い、決定する予定です。

とかく娯楽的要素に流れがちなロータリークラブの運営ですが、それはそれで管理運営委員会がしっかり親睦促進をしてくれると思いますので、当委員会は、ピリッと辛い、真に会員の役に立つクラブとなるための活動を行っていきたいと思っています。

◆広報委員会　広報委員会の状況報告（谷口公啓　委員長）

活動方針としては以下を掲げて、活動をしています。

「デジタルとリアルの融合による『見える化』の推進と会員価値の創造 ― そして『平和都市・広島』からの国際的発信」

デジタル広報を継続・深化させつつ、平和都市・広島ならではの国際交流を新たな柱に据える。

具体的計画としては、以下を挙げております。

① ウェブサイト戦略（外部発信と内部充実）

② メディア・地域連携

③「Peace Make-up in Hiroshima プロジェクト」の推進【新規】

（世界のロータリアンを広島でのメークアップに迎える、平和都市・広島ならではの国際交流の取り組みを広報活動に活かす）

状況報告は以下の通りです。

① ウェブサイト戦略（外部発信と内部充実）：

従来通り、一般公開サイトにて活動状況その他発信を行っております（外部広報）。また、システム基

盤として開発中の「ServeCore」を活用して、内部広報・会員間の情報共有に寄与しています。将来的には会員専用サイトは閉鎖する方向です。

② メディア・地域連携：

これについては、先日実施した委員会にてその方面に精通した委員がおり具体的な提案がありましたので、引き続き委員会内にて協議し、実施する予定です。

③「Peace Make-up in Hiroshima プロジェクト」の推進【新規】：

これについては、「Peace Make-up in Hiroshima プロジェクト 戦略提案書」を作成しました。しかし、これは長期的な視野と他の委員会とも連携しクラブ全体で取り組まねばならないものです。広報委員会として単独で取り組めるものでは無いとの認識です。

◆ロータリー財団委員会　ロータリー財団委員会の状況報告（諏訪昭浩　委員長代行）

ロータリー財団委員会の活動について、伊藤委員長の代わりに報告申し上げます。 当委員会は、会員のロータリー財団寄付及びプロジェクトに関する理解を促進し、奉仕プロジェクト委員会と協力して補助金の活用を検討し実施する役割を担っています。

当クラブは、ロータリーが初めての会員がほとんどで昨年度の 9 月に設立されたばかりなので、まずは、ロータリー財団とは何か、寄付や補助金にはどのような種類があるのか、という一般的な知識の提供に心がけます。そのため、11 月 5 日例会のプログラムで、当委員会主催のプログラムを予定しています。寄付の促進については、まずは寄付する先であるロータリー財団を理解していただき、そして、寄付金がどのように使われるかも理解していただいたうえで、徐々に進めていくべきだと考えています。

◆会員増強委員会　会員増強委員会の状況報告（渡辺郁　委員長）

会員増強委員長として、少しお時間をいただきます。今年度が始まってまだ間もない中、すでに 3 名の方が退会されました（発足時から見れば 4 名）。私はこれを、単に「会員が 3 名減った」という数字の問題として捉えてはいけないと思っています。

会員増強委員会の役割は、新しい会員を連れてくることだけではありません。今年度の活動目標にも、「誰もがここにいていいと感じられる環境づくり」と明記されています。

では今、私たちのクラブは、誰もが「ここにいていい」と感じられる場所になっているでしょうか。3 名の退会を受けて、私たちは何かを改善する必要があるのでしょうか。それとも、それぞれの事情による退会として、特に改善する必要はないのでしょうか。

私は、その答えを持っているわけではありません。だからこそ、皆さんと一緒に考えたいと思っています。つい先日ご案内した通り、会員増強委員会を開催し、委員以外の方にも参加していただいて、率直な意見を聞かせていただきました。

そこで改めて感じたのは、私たちはそれぞれ、この広島新世代ロータリークラブに何かを期待して入会してきた、ということです。

・　ロータリーだからこそ出会える人とのつながり。

・　ロータリーについて学ぶこと。

・　自分自身が成長すること。

・　奉仕をすること。

・　そして、立場や年齢、経験の違う人たちと意見を交わすこと。

期待しているものは、一人ひとり違います。一方で委員会では、

・　「もっと参加する機会がほしい」

・　「もっとロータリーについて学びたい」

・　「聞くだけではなく、自分たちが話せる場がほしい」

・　「クラブとして何を目指しているのか、もっと共有したい」

・　「意見を言える、風通しの良いクラブであってほしい」

という声もありました。どれも、とても大切な声だと思っています。

そこで、皆さんにも少し考えていただきたいのです。私たちは今、自分が入会したときに期待していたものを、このクラブの中に見つけられているでしょうか。

そしてもう一つ。今の私たちは、このクラブを誰かに「一緒に入らない？」と、自信を持って勧められるでしょうか。私は、この問いを会員増強の出発点にしたいと思っています。

「クラブ」という人格が、どこかに存在しているわけではありません。クラブをつくっているのは、ここにいる私たち一人ひとりです。

・　私たちがどう話すのか。

・　人の意見をどう聞くのか。

・　違う考えをどう受け止めるのか。

・　新しく入ってきた人にどう接するのか。

その一つひとつがクラブの空気をつくり、雰囲気をつくり、やがて文化になっていくのだと思います。だから、今のクラブに課題があるとしても、それを変えられるのも私たちです。

会員増強というと、どうしても「何人入会させるか」に目が向きがちです。もちろん、新しい仲間を迎えることは大切です。でも、その前に、今、所属している会員全員が「ここに居続けたい」と思えること。そして、「このクラブなら、大切な人を仲間として誘いたい」と思えること。私は、そこから始めたいと思っています。そしていつか、今期退会された方々にも、「もう一度、広島新世代の仲間と一緒に活動してみたい」と思っていただけるくらい、私たちのクラブが進化し、成長していたら、とても素敵なことだと思います。

退会された３名を、単に「辞めた人」として終わらせるのではなく、その方々が残してくださった声も、これからのクラブづくりに生かしていきたいと思っています。そして、会員増強も会員維持も、会員増強委員会だけでできることではありません。

誰かがクラブを良くしてくれるのを待つのではなく、私たち一人ひとりがクラブをつくっている。そのことを、今一度、皆さんと共有したいと思います。

9 月 17 日の例会では、会員増強のプログラムとして、

「あなたが居続けたいクラブとは？」

をテーマに、皆さんと一緒に考える時間をつくります。誰かを批判する場でも、誰かが正解を示す場でもありません。安心してそれぞれが感じていることを話し、違う意見にも耳を傾ける。そんな時間にしたいと思っています。

・　今いる人が、居続けたい。

・　一度離れた人が、また戻ってきたい。

・　そして、自分の大切な人を、ここに誘いたい。

そんな広島新世代ロータリークラブを、私たち自身の手でつくっていきたいと思っています。

ぜひ 9 月 17 日、皆さんの率直な声を聞かせてください。どうぞよろしくお願いいたします。

◆奉仕プロジェクト委員会　奉仕プロジェクト委員会の状況報告（福本博之　委員長）

奉仕プロジェクト委員会は、活動方針として以下の３つを掲げています。

１．青少年奉仕と平和貢献を柱とした対外的奉仕活動を行う。

２．会員の得意分野やネットワークを活かし、会員の成長につなげられるよう工夫をする。

３．自己満足ではない、実効性があり社会的にも高く評価され、会員の満足度向上や自己教育、会員増強にもつながる活動を心がける。

以上の活動方針のもと、４つの活動を計画しています。

１つ目が、日本発達支援サッカー協会の活動の支援です。こちらは杉岡さんが代表をされている、サッカーを通じて発達障害の子どもたちの発達を支援する団体です。来年４月３日は昨年と同様にグ

リーンアリーナでサッカー大会を行います。前日の４月２日にはエディオンピースウィングスタジアムで海外の子供達を招いた大会を計画中です。

２つ目が、RYLA の主催です。一泊二日程度で１０人程度の参加者をつのって開催できないかと考えています。企画内容はもとより、どうやって若者を集めるかも今後の検討課題です。

３つ目が、沖縄や長崎のクラブとの連携を進め、共同プロジェクトを推進することですが、こちらは今年度どうこうというわけでもなく、長期的に取り組んでいきたいと考えています。

４つ目が、海外クラブや原爆資料館等と協力し、海外在住の被爆者・死没者の確認を進めることです。人によってはセンシティブで触れられたくない内容だと思いますので十分に配慮しつつ、まずは目的や方針を明確にして、誰でも共通認識が持てて同じような説明ができるよう企画書もまとめていきます。

これらの４つの内容は、奉仕プロジェクト委員会が中心になって進めますが、クラブ全体で取り組むものです。例会などで都度ご案内していきますので、一緒に楽しみながら有意義な活動にしていければと思います。

◆戦略計画委員会　戦略計画委員会の状況報告（諏訪昭浩　委員長）

当委員会は、RI の 3 カ年計画を加味したクラブの 3 カ年ローリングプランを策定して単年度計画に反映させ、進捗状況を把握管理し、クラブのすべての規定を毎年見直し必要な改定を加えることを責務としています。

昨年度発足した当クラブは、諸事情によって、いまだ管理運営の仕組みが固まっていない状態です。この状態で複数年度の計画を策定するのは時期尚早だという会長判断もあり、いまだ活動をしておりません。今年度中に、クラブとして最低限の管理運営の仕組みを確立し、次年度以降はそれを基盤に目論見通りの委員会活動を実施したいと考えています。

―― 以　上 ――